

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	<b>59</b>	実施計画番号	114
事務事業名	エコツーリズムの推進		<b>事業開始年度</b>
担当課名	観光推進課		事務の種類(選択) <b>自治事務</b>
根拠法令等	十和田市観光基本計画	関連事務事業	
<b>背景や経緯等</b>	奥入瀬溪流の渋滞解消、環境保全のため、将来的なマイカー規制のあり方と溪流の利活用について検討と試行を行う必要がある。		
<b>事務事業の目的</b>	①環境保全を図りながら観光資源としての魅力を活用したエコツアープログラムの充実。 ②アウトドアガイドの育成を図り、ガイドウォーキング等のアウトドア体験事業の支援。 ③奥入瀬溪流利用適正化(奥入瀬溪流エコロードフェスタの開催)の推進を通して、奥入瀬溪流の環境と自然の美しさを守りながら観光づくりを進める。		
<b>実施状況</b>	奥入瀬溪流利用適正化協議会、奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクトへの参画により、奥入瀬溪流エコロードフェスタを開催。イベント内で、巨木体験ツアーや高校生ボランティアガイドウォークを実施している。		

### 【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	10	10	10
	人件費(千円)	360	360	360
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

### 【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	500	500	500
うち一般財源	500	500	500
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

### 【指標】

活動指標	活動指標名①		ガイド対応件数			
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
			件	30	37	40
	活動指標名②		認定ガイド数			
計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
		人	12	14	20	
成果指標	成果指標名①		ガイド対応件数			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
		件	目標値	30	30	40
			実績値	25	37	
			達成度(%)	83%	123%	
	成果指標名②		認定ガイド数			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
		人	目標値	20.0	20.0	20.0
	実績値		12	14.0		
	達成度(%)		60%	70%		

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	59
計画No	114

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">                     自然資源を活用したエコツアーや、高校生ボランティアが実施するウォーキングガイドツアーは、観光客から好評であり、ガイド団体や学校側による、率先した取り組みが今後も期待される。                 </td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	1 / 4	自然資源を活用したエコツアーや、高校生ボランティアが実施するウォーキングガイドツアーは、観光客から好評であり、ガイド団体や学校側による、率先した取り組みが今後も期待される。	
	存在意義の見直しの余地	1 / 4								
自然資源を活用したエコツアーや、高校生ボランティアが実施するウォーキングガイドツアーは、観光客から好評であり、ガイド団体や学校側による、率先した取り組みが今後も期待される。										
② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	B	1							
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">                     自然資源を活用した観光ガイドの需要は今後も必要であると予想されるが、当事者であるガイド団体にとっては、活動の基となる、もの、ひと、かねの部分で十分な環境であるとは言えず、ガイド数が伸び悩む一つの要因となっている。                 </td> </tr> </table>	成果向上の余地	2 / 6	自然資源を活用した観光ガイドの需要は今後も必要であると予想されるが、当事者であるガイド団体にとっては、活動の基となる、もの、ひと、かねの部分で十分な環境であるとは言えず、ガイド数が伸び悩む一つの要因となっている。	
	成果向上の余地	2 / 6								
	自然資源を活用した観光ガイドの需要は今後も必要であると予想されるが、当事者であるガイド団体にとっては、活動の基となる、もの、ひと、かねの部分で十分な環境であるとは言えず、ガイド数が伸び悩む一つの要因となっている。									
④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">                     現在活動しているガイド団体等が連携する事により、ネットワークを広げ、相互に観光客を融通できるような取り組みが望まれる。                 </td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	現在活動しているガイド団体等が連携する事により、ネットワークを広げ、相互に観光客を融通できるような取り組みが望まれる。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	現在活動しているガイド団体等が連携する事により、ネットワークを広げ、相互に観光客を融通できるような取り組みが望まれる。									
⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">                     観光ガイド団体に対する支援については、経費的な支援がないことから、特定の団体ではあるものの、受益の偏りは無い。                 </td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	観光ガイド団体に対する支援については、経費的な支援がないことから、特定の団体ではあるものの、受益の偏りは無い。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
観光ガイド団体に対する支援については、経費的な支援がないことから、特定の団体ではあるものの、受益の偏りは無い。										
⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
<b>現在の適性</b>					17 / 20	<b>改善の余地</b>	3 / 20			

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

<b>方向性の理由</b> 観光資源としての魅力を活用するエコツアープログラムは現状、市の観光のベースにもなっており、今後も需要が続くと考えられる。この取り組みを継続させるために、観光ガイドの人数増加や育成を同時に行いながら、観光客をお迎えできる体制を整える。
<b>今後の具体的な取組方策と狙う効果</b> 自然を観光資源として活用するプログラムを実施するガイド団体や、アウトドアガイド育成に取り組むガイド団体への側面的な支援を継続することによって、エコツアープログラムの提供やガイド育成を行えるような環境の整備に結び付ける。